



令和3年9月21日（火）



彼岸花の咲く頃に

台風一過の連休は晴天に恵まれ、夏の暑さを感じさせる気候でした。寝苦しい夜もありましたが、朝夕は冷え込み完全に秋の到来を感じさせられました。田畑の畦道には彼岸花が咲き誇り、実った稲穂の周囲が朱に染まっているようです。この彼岸花、鱗茎に毒性のアルカロイド（窒素を含む有機化合物の総称で毒性を示すものが多い。核酸やアミノ酸は除かれる）が含まれ、田畑を荒らすモグラやネズミなどがその毒性を嫌うことから人為的に植えられたといわれています。墓地周辺に咲くのもそのためです。また、はるか昔、非常時には救飢植物として毒性を取り除き、食用できるため、各地に植えられたともいわれています。このように墓地周辺に植えられたり、彼岸の時期に咲くことから、良いイメージがもたれることがない花で、多くの別名の中にも、恐ろしい名前もあるほどですが、中には情熱的な名前もあつたりします。その名前の1つに、「ハミズハナミズ」という名前があります。一瞬「ハナミズキ？」と読み間違えそうになりましたが、「ハミズハナミズ」です。花がある時は葉がなく、葉がある時は花がないという特徴をもち、葉と花が同時に見ることができないことからそう呼ばれるようです。ある国では、そのようにお互いを思いあっていることから「相思花」とよばれたり、「マジックリリー」とよばれ、人気もあるようです。

私は他の花にどれだけ別名があるのか詳しく知りませんが、この彼岸花にこれだけ多くの別名があることから、きっとこの花を日本人は気にかけてきたのだと思います。私もこの時期、花は見れますが、葉もぜひ見てみようと思います。

